

かまろみる
かお
KAMOMILK
KAWO
ふうしん

~ NEWS Letter ~ 6号 2010.12

目次

カモミール・キャリアアップ・カフェ
を開催しました。 P1
 応用生物科学部共催FDを実施し
ました。 P1
 ホームページを開設しました。 P2
 「サイエンス夢追い人」育成プロジ
ェクトが始動しました。 P2
 第 20 回岐阜シンポジウムを開催
しました。 P2
 医学教育開発研究センター「地域
体験実習」の取り組み P2

カモミール・キャリアアップ・カフェ
~ロールモデル(活躍している研究者)に学ぼう~ を開催しました。

【第1回】 日時:平成22年11月15日(月) 14時~15時
 場所:カモミール・カフェ 参加者:7名(大学院生、ポスドク研究員、教職員)
 本学卒業生で酪農学園大学獣医学部講師の石原加奈子氏からご自身のキャリア形成
 を振り返り「農林水産省入省後の3年間は研究に専念し論文博士を取得した。
 その後の異動で事務仕事為主になり、やはり研究がしたいという思いから教員へ転職した。
 困ったり迷ったりした時には、自分から動いて周囲から助言をもらいながら進むのが大事」
 とのお話がありました。



【石原 加奈子 氏】

【第2回】 日時:平成22年11月26日(金) 14時~15時半
 場所:カモミール・カフェ 参加者:7名(大学院生、ポスドク研究員、教職員)
 (独)農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究所の主任研究員でキャリアカウ
 ンセラーの花房泰子氏から、現在の自分の状態を客観的に知る方法の一つとして「自己成長
 のエゴグラム」というテストをご紹介いただいた後、ご自身のキャリア形成において体調を崩
 した際に友人から支えられたエピソードを話され、「人との関わりを大切に。いろんな時々を
 乗り越えていくためにネットワークを作っておくことが大事」とのアドバイスがありました。



【花房 泰子 氏】



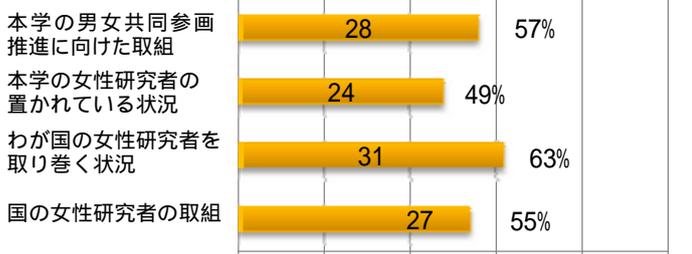
男女共同参画推進室・応用生物科学部共催 FD を実施しました。

平成22年11月17日(水)に応用生物科学部第一会議室におきまして、男女共同参画推進室・応用生物科学部共催のFD「岐
 阜大学における男女共同参画の推進に向けて」を開催し、63名の参加がありました。

男女共同参画推進室長の林副学長と三宅特任准教授より、「岐阜大学における男女共同参画の現状」「科学技術振興調整費
 による女性研究者支援モデル育成事業」「岐阜大学男女共同参画推進室の取り組み」について報告しました。

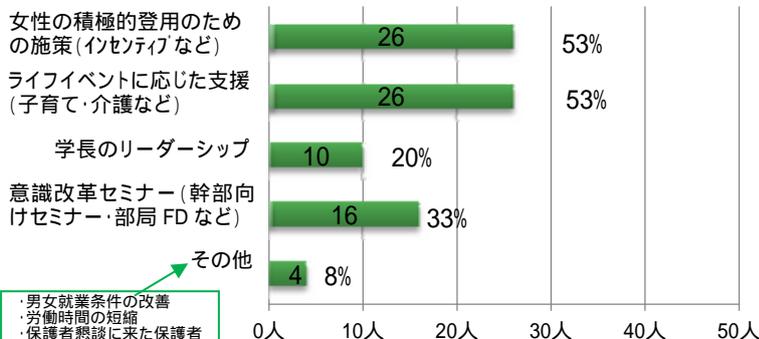
最後に出席者の皆さまにアンケートにご協力頂きましたので、いくつかご紹介いたします。

このFDにより理解が深まった項目



* アンケート回答人数:49名 (複数回答可)

岐阜大学において男女共同参画の推進に必要と思う項目



・男女就業条件の改善
 ・労働時間の短縮
 ・保護者懇談に来た保護者
 へのPR
 ・女性が休職した時のサポ
 ートへのインセンティブ

その他 ご意見・ご要望など

- ・他大学の取組を知りたい。
- ・採用に女性ワクを設けると、「逆差別」になるのではないか。
- ・女性の数はこれから増えていくのであって急いで増やす必要はない。
- ・過去数年間で新規採用された人の中での男女比を示したデータが大切。
- ・定員削減の中、女性だけでなく若手研究者が職が見つからず困っている。
- ・人員削減により、一人休むと専門教育に深刻な問題が生じる。男女に関係なく
 人員が増えなければ、適切な対応はできないだろう。
- ・教員の意識調査をしてほしい。

今後のスケジュール

医学部:平成23年1月19日(水)15時より
 教育学部:平成23年2月4日(金)
 地域科学部:日程調整中

 多くの方のご参加をお願いします。

ホームページを開設しました。

[URL] <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
[岐阜大学公式 Web ページから]

トップ > 大学案内 > 男女共同参画の推進

男女共同参画宣言、
取組内容、各種イベント
情報等がご覧になれま
す。随時更新していま
すので、是非アクセスし
てください。



「サイエンス夢追い人」育成プロジェクト 始動しました。

平成 22 年 12 月 16 日 (木) に岐阜大学教育学部附属中
学校にて本学大学院生による出前講義を行いました。
詳しくは、次号でお知らせいたします。

第 20 回岐阜シンポジウム「岐阜大学発 男女共同参画社会の実現をめざして 企業 の成功例に学ぶ」を開催しました。

平成 22 年 12 月 11 日 (土) 岐阜大学講堂にて第 20 回
岐阜シンポジウムを開催いたしました。
ご参加いただいた皆さま、ご協力いただいた皆さま、
ありがとうございました。詳しくは、次号で。

かもみーる取材紀行 第 1 回 医学教育開発研究センター「地域体験実習」の取り組み

岐阜大学医学教育開発研究センター (MEDC、鈴木康之センター長) では、平成 20 年より医学部 1 年生を対象に「地域体験実習」を授業に組み入れています。「地域体験実習」とは、6 週間にわたり週に 1 度、学生が担当の幼児、妊婦、高齢者と継続交流を行うもので、より良いコミュニケーションと人間関係構築の仕方を学ぶとともに、人生のライフサイクルを理解することをねらいとしています。学生が将来医師となった時に患者さんなどのコミュニケーション能力を養うために始められたものですが、妊婦や保育園児との交流の中で、男性の子育てに関する関心が高まり、男女共同参画の意識啓発にも大きく貢献しているようです。保育園担当の加藤智美先生と実習を行っている学生さんたちにお話を伺いました。(保育園実習は学内保育園「ほほえみ」と「すこやか」で行われました。)

「ほほえみ」で実習中の T さん
(臨床医希望・女性)
・結婚しても仕事は続けたい。
子どもを安心して預けられる態
勢があれば、フルタイムを希
望。今回、保育を経験してお母
さんって大変だな、と実感。結
婚後はパートナーにも家事の
手伝いをして欲しい。



「すこやか」で実習中の K さん
(臨床医希望・男性)
・育児は全てが新鮮。はじめは赤
ちゃんにどう接していいか分か
らなかったが、話しかけを続け
ていたら笑ってくれるように
なった。嫌いなものを食べ
させることが大変。結婚後は
共働きを考えているが、家事
と育児をひとりでやるのはと
ても大変なので、ふたりの力
が必要だと思う。



「ほほえみ」で実習中の M さん
(臨床医希望・男性)
・今回、保育は楽しいものだ
と分かった。家庭を大切に
したいので、職場選びでは、
早く家に帰れる環境である
かは大きなポイント。結
婚後は共働きになれば、
親と同居を考えている。

「すこやか」で実習中の N さん (女性)
・はじめは赤ちゃんの扱い
方が分からなかった。将来
のことはまだ何も考えて
いない。周りでもそういった
話は全然出ない。



加藤 智美 先生

・最初は どう接したらいいのか戸惑っていた学生も、回を重ねる毎に、担当児を理解し、相手に合わせて自然に接することができるようになる。1 ヶ月半と短期間にもかかわらず学生の成長には目を見張るものがある。また乳幼児との関わりを通じて子育ての楽しさや大変さを実感し、自分たちの将来についても考える機会になっているようだ。

女性が働き続けるにはライフステージに応じた「ワーク」と「ライフ」のバランスをとる必要がある。自分の北極星 (*夢や人生の目標) を目指し、今どのステージにいるのかを俯瞰的にみつめ環境を調整する力を養うこと、そしてお互いの多様性を認めあう職場環境を作っていくことが重要だと思う。



取材先、募集中です。
男女共同参画に関する取組
をされている部署がありま
したら、お知らせください。

岐阜大学男女共同参画推進室 (人事労務課男女共同参画係) URL: <http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>
〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1 Tel: 058-293-3378 Fax: 058-293-3396 E-mail: sankaku@gifu-u.ac.jp

* 男女共同参画に関するご意見・ご要望は男女共同参画推進室へお願いします。